

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成24年5月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要

【前月からの動き】

↻ 前月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は5から6に増加。「減少した」業種は5から4に減少。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は5から9に増加。「減少した」業種は14から11に減少。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は1から3に増加。「悪化した」業種は12から11に減少。

↻ 前年同月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は7から6に減少。「減少した」業種は7のまま変化なし。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は13から12に減少。「減少した」業種は7から9に増加。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は10から7に減少。「悪化した」業種は15から17に増加。

製造業

■豆腐製造

【県内全域】

5月時点で国産大豆の価格がさらに上昇が続き、販売への転嫁が難しく製造業者の利益をますます圧迫する状況が続くと思われる。

■牛乳小売

【県内全域】

ヨーグルト類は好調な売れ行き。

■製材

【県内全域】

国交省の建築物リフォーム、リニューアル調査によると、耐震改修の受注件数が大幅に増加。

■製材

【木更津】

露国材原木船(5147㎡)1隻のみ入港。南洋材で1本ものの販売あり。

■印刷

【県内全域】

5月の受注売上は、上旬から中旬迄4月の悪い流れのままだったが、下旬から若干好転した模様。前年同月比では若干悪化したとの声が聞こえる。

■生コン製造

【県内全域】

各地区で生コンの値上げが浸透してきた。

■電気鍍金

【千葉】

昨年同期と比較すると、月半ばより回復の兆しが顕著に現れてきたが、欧州の経済環境の悪化が懸念される急速に生産活動が落ち込んできた。前年同月比97%。

鉄工

【千葉】

各社動向は特段の変化は見られず、横ばい推移が続いている。そのような中で、一部に設備投資の動向が伺われることは明るい材料。

■機械部品製造

【野田】

全体的に平常に戻ってきているように見受けられるが、先行き不透明な状況にある。

■機械部品製造

【流山】

売上高については、前月と同様微増しているようであるが、依然厳しい景況である。

■機械部品製造

【柏】

円高、株安の背景が更に海外生産、調達を推し進めている状況と不透明さがマインドを下げている。

■金属製品製造

【船橋】

中国経済の減速により、一部減少傾向も見られるが、全般的には緩やかな回復傾向にある模様。

■採石

【県内全域】

東京港、横浜港では港湾整備が始まり、若干とはいえ前年30%程度の増が見込める。

■土砂採取

【県内全域】

公共事業等の発注が減少し、骨材の需要も減少する中、各企業は事業運営に苦慮している。しかし、一部には前月同様、災害復旧の関

係で、骨材需要増加の方向のところがある。砂の供給（資金面）も出来ず、砂の需要も激減し、砂事業の廃業が目立ってきている。埋立用山砂については、工事物件があまりなく、厳しい予想となるので、生コン用砂を取り扱っていない会社は、経営にも影響が出る可能性がある。

非製造業

【総合卸売】

【千葉県・東京都】
【家電卸】TV・DVDデッキ等、小売価格の値崩れが続いており、取扱い縮小傾向。省エネの為、クーラー・扇風機等の出荷好調。

【食肉卸売】

【千葉市他】
原発事故による風評被害は少し改善している。

【自動車解体】

【県内全域】
数量的には5月は前年より20%増加。災害復旧とは因果関係が乏しい。新規民需物件が乏しい。また、公共工事も削減のまま。契約残の消化のため、景気回復感はなく、底を打ったと思いたい。先行き不明。

【自動車解体】

【県内全域】
入庫は前年に比べ好調だがスクラップ価格が下落。再度円高が進み、先行き不安感あり。カーメー

カーによる市場の支配についての記事が専門誌に出た。

【乾物卸売】

【県内全域】
消費低迷状況は変わらない。

【卸売】

【茨原】
景気は相変わらず良くない。良くなる要素すら見られない。団地の名称が決定した（もばらオロシテイ）。活性化に繋がるようにステッカーやチラシを配りイメージアップに努力したい。

【小売】

【柏】
大型連休中を含め、順調に推移した。

【電気機器小売】

【県内全域】
先月に続き販売の低迷が止まない。期待される太陽光発電も初期投資が大きいため未だ伸びず。

【青果小売】

【千葉】
先月より更に価格が低下した分、収益は良くなった。低温が続き商品によっては品不足が発生。

【中古車仕入・販売】

【県内全域】
エコカー減税と補助金による新車販売が好調。中古車のタマが豊富な状況で、相場の低下に影響を与えた。補助金の終了時期が前倒しになる可能性も高く、今後の動きに注意が必要。輸出は船の関係で低調な状況である。

【小売】

【東金】
食品は前年並み。ファッション関連品は、夏物が動き始めている傾向あり。母の日ギフトは、年々単価が下がってきている。郊外では高額品が低迷している。

【小売】

【野田】
特売品や目玉商品は良く売れるが、衣料品の売り上げが相変わらず不振。イベント開催などでGW期間の来店客増にきたいたしたが、低調であった。

【小売・サービス】

【柏】
消費の回復は全く無い。会員では無いが、柏の野菜のみを扱っている八百屋では風評（原発のホットスポット）と言う事で売上が激減し販売が成り行かない状態。雨や雷雨の多い天候の不順もあり、夕方からの客足も途絶えがち。

【建設】

【鴨川】
業界全体でも一部を除き高額商材が不調、ボリュウムゾーンが下がりつつある。ヒット商品が出ないので品揃えに苦慮。

【建設揚重】

【県内全域】
設備稼働状況は4月に下降したが、5月は少し戻り傾向。

【遊覧船】

【鴨川】
相変わらず、冷え込みが続いており、観光関係の入り込み数では、

22年度に比べ30%弱の減が23年度の集計で判明したことが5月の新聞で発表された。東電の風評被害又賠償補償など整理がつかず、見通しがわからない。

【一般廃棄物処理】

【千葉市】
千葉市の取り組んでいる「事業系ごみ削減対策」により、廃棄物の量は年々少なくなってきた。当月は前月並びに前年同月と比べても取り扱量が少なく、今後についても期待できない状況。

【ソフトウエア】

【県内全域】
最悪な状態から脱却しつつあるように思えるが、停滞感が強いと思われる。時期的にも新規案件が少ない。

【建設】

【県内全域】
当連合会加入組合員の受注額は6673百万であった。これは前月比で3000百万の増加。前年比でも93百万の増加となった。

【貨物運送】

【野田】
一度は上昇したかのように見えた物流量だったが、大型連休のせいか減少に移った。前年比でも減少した。燃料価格は低下の傾向。

【輸出入】

【県内全域】
回復基調だが円高で海外旅行者が少ない。